

「ミマモライド」は まちを見守るネットワーク



住民も企業もまちづくりに参画する認知症検索システム



ミマモライドとは



道迷いリスクのある認知症当事者に、電波を発する「みまもりタグ」を持ってもらい、そのタグの位置情報を自販機や公共施設などに設置された「子機センサー」を通して保護者のLINEへ送ることで認知症の方をまちで見守るシステムです。



① みまもりタグを受け取る

自治体や包括支援センターなどを介して手続きを行い、登録の後、タグを受け取ります。



② 身につける

みまもりタグはカバンやお財布に入れたり、鍵や杖に付けたり、靴底に貼付けて身につけます。



③ 子機センサーが反応して現在地を通知

ミマモライドシステムから保護者のLINEへ位置情報が届きます。子機センサーはみまもり自販機や公共施設の他、当事者宅にも設置します。

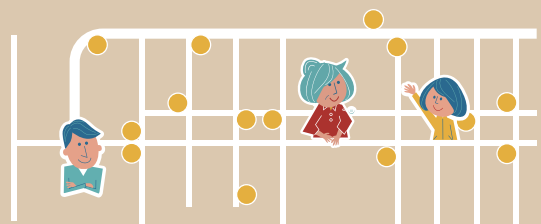


④ 道迷い発生と搜索

道迷いが発生したときはLINEから「さがす」と発信するだけで、「ミマモライド搜索システム」を開始することができます。自治体、警察、協力団体と連携して搜索を行い、少数かつ短時間での発見・保護を目指します。

「みまもり自販機」がたくさんあると

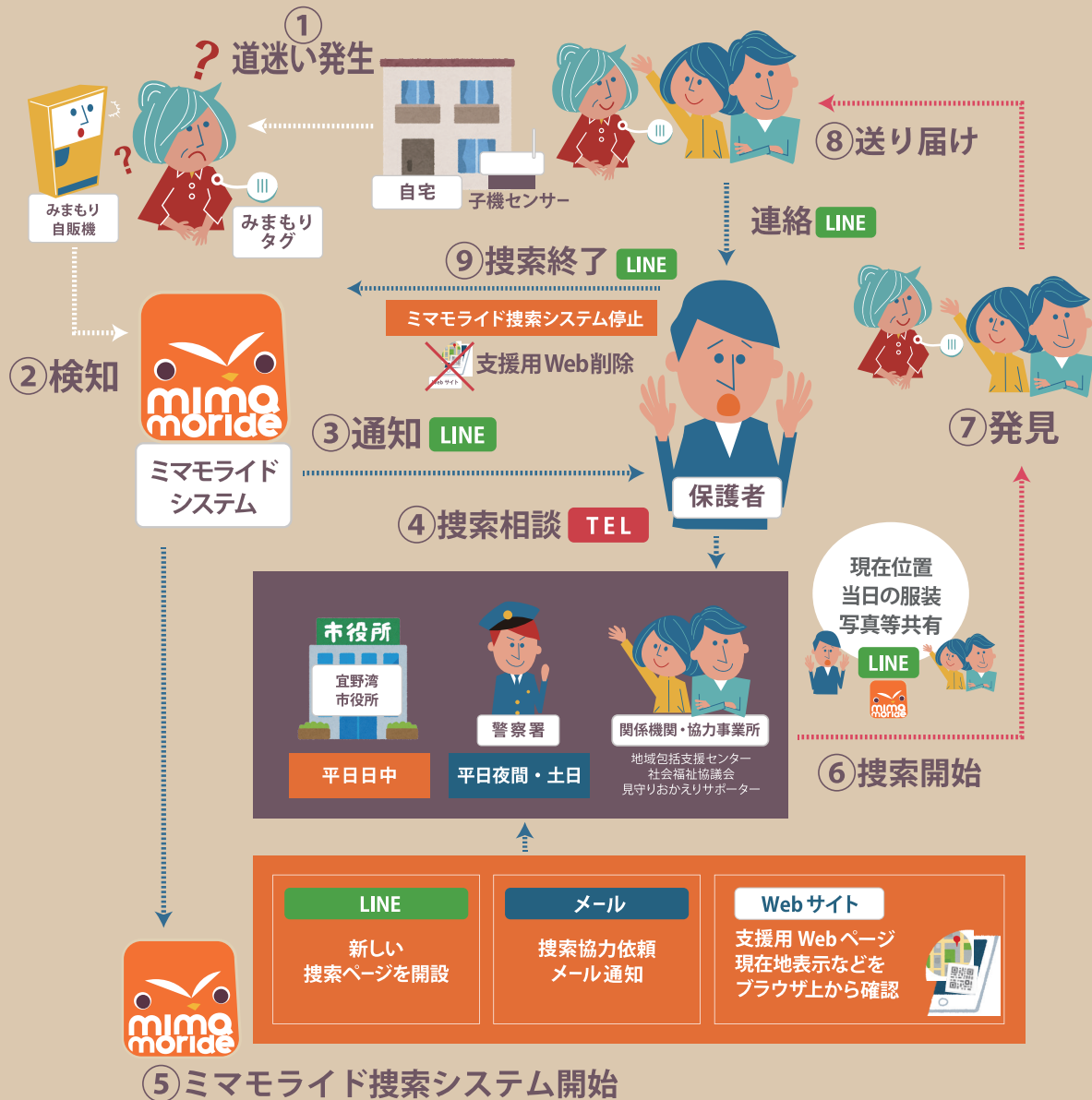
子機センサーが設置された自販機を地域に張り巡らせることで、みまもり機能の精度が高くなり、緊急時の搜索において早期の発見・保護に繋がります。



ミマモライド検索システムのながれ

道迷いが発生したときは、保護者の LINE から「ミマモライド検索システム」をスタートさせ LINE、検索 Web ページ、Google Map を使って自治体、警察、協力団体と共に検索を行います。ミマモライドは「少ない人数での検索と迅速な発見」をサポートします。

沖縄県宜野湾市での事例



システム構成



【みまもりタグ】

500円硬貨大のBLEビーコンと呼ばれる「タグ」を利用。薄型、キーホルダー型など様々な形状があります。



【子機センサー】

みまもりタグが半径15m以内に近づくと位置情報を親機に送ります。自販機や公共施設、当事者宅にも設置します。電源を挿すだけで起動します。



【親機】

LoRaを使用したゲートウェイ端末です。子機センサーから位置情報を受け取りサーバへ送ります。見晴らしの良い高い場所に設置します。

ミマモライド開発の歴史と今後の展開

2022
~2025

**認知症の方々も安心・安全な外出を担保できるまちづくり事業
~多様なセクターの参画で実現するお出かけの自由~ (3年計画)**

休眠預金活動事業 (一般財団法人日本民間公益活動連携機構/JANPIA)
ミマモライドシステムが稼働している宜野湾市の周辺地域へ移転事業開始

2020
~2024

宜野湾市見守り自販機委託事業 (4年計画)

宜野湾市
前年までの蓄積を元に宜野湾市に実機設置、マニュアル整備

2019
~2020

地域を見守る「ミマモライド」プロジェクト

平成31年度 アジアITビジネス活性化推進事業補助金 (一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター/ISCO)
宜野湾市をテストフィールドとして調査、開発

2016
~2017

みまもり自販機プロジェクト

平成28年度 沖縄アジアITビジネス創出促進事業 (公益財団法人沖縄県産業振興公社)
首里石嶺町をテストフィールドとして調査、開発

